

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 265 号
(6 月)
2023

思考力の芽生えの取り組み

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

新年度が始まり二か月が経過し、子ども達の活気あふれる姿が目につくようになりました。一年の活動を通し個々の心身の成長を期待しております。その子ども達ですが、内面的心の育ちは、子ども自身の主体的な「遊びが学び」となる活動が中心です。そのため担任教師による心豊かに育って欲しい環境構成の中で、他児と関わって「したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたり」することを通して、子どもなりの認識力、判断力、そして思考力の芽生えが、心の育ちとして培われることを目標とします。

この度の幼小中高を通しての教育要領の改訂は、基本的な知識理解や技能技術の習得以上に、思考力・考える力、創造性を身に付けることを重視しており、小中高の学びの評価の教科テスト課題は子ども自身の考えや思いによる思考過程の回答が求められることが多く、幼児期からの思考力の芽生えの育ちが重要課題となっております。

私どもは身近な子ども達の生活や遊びの中で、子ども達自身がわくわくと心を揺らす体験を通して、自分の感情や思いの高まりから、お友達との遊びを深め色々なエピソードを通して、その気持ちや感情に気づき、それをその時の「ことば・言葉」で表現する経験を重ねることが、その子の思考力の芽として育まれることを実践しております。

従って思考力の芽生えは、幼児が自分の感情や思いなどを相手に分かち合ってもらおうと身振りや表情を含めて「ことば・言葉」を発し表現することを繰り返し、自分なりの音声ことばで思いを示し、言葉として表現することを何度も経験することで、思考力が育っていくものと考えられます。

(当園の教師は、この過程を重視し個々人の状況を丁寧に観察し捉え、子ども自身の育ちを支援することを大切にしよう園内研修で確認しております)

また、各学年クラスとも日常の絵本の読み聞かせを重視していることは、感情豊かに創造性を育てることや、語い・語感を育て知識を広げること及び考える力を

育てることをねらいにしており、併せて「ことば・言葉」を豊かにする環境に力を入れるためです。なお昨年の職員の園内研修のテーマは、言葉で表現する力に視点を当て深めました。そして先日の本年の園内研修取り組みでは、子ども自身の体験や思いを自らの言葉で考え表すための環境構成をどうするかが話題となっております。

幼児期における思考力の芽生え、考える力を育む教育・保育は今後ともに大切で、小学校接続を重視する架け橋プログラムに欠かせない資質・能力だと考えられ力を入れ活動しております。



年少児お友達との関わり

今年度の運営方針の補説

園長 坂本 信行

今年度の運営方針については、久しぶりに開催された対面式のふたば総会でスライドを使って説明しましたが、今回はその補足説明をします。

教育基本法には、教育は人格の完成（知・徳・体の調和）を目指して行われるもので、乳幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとして示されています。乳幼児期の調和ある知・徳・体の関係を私は、図1のような三角形として捉えていて、土台には「体」、その上に「徳」、その上に「知」としています。乳幼児期は「体」が土台で、近年は「体」に「食育」も含まれ、年齢が低ければ低いほど「体や食」を重視しています。もちろんこれらは分けられるものではなく、お互いが関連しあっています。

世間には幼児期に「読み、書き、そろばん」に代表されるような「知」を重視する意見もみられますが、本園はそれは採用していま

せん。

① 非認知能力の育成

すでにお届けしている今年度の運営方針と一緒にご覧ください。

それには「知」として園児には「博士」で呼びかけています。それは自分の好きなことややりたいことに熱中して取り組み、それを通して自主性や積極性、意欲や工夫などを育もうとするものです。これらは「読み、書き、そろばん」のような認知能力とは異なり、点数では測られない非認知能力です。

乳幼児期にはこの非認知能力の育成が認知能力の育成より大事であることをアメリカの経済学者でノーベル賞を受賞したヘックマン教授が唱えています（※1）。これはペリーの就学前教育の四十年間の追跡調査の結果から導き出された結論です。古くなりますが、ソニーの創業者の一人である井深大も社長を退任してから「幼児開発協会」を設立し、乳幼児期は人

柄を育てることが大事として非認知能力の育成の重要性を唱えています（※2）。この非認知能力は「知」だけでなく「徳」でも大事です。本園では「徳」の具体的な行動として「あいさつやありがとう」を呼びかけています。これによって人と関わる力、例えば協同性や自制心、コミュニケーション力等を育みたいと考えています。

② 早寝早起朝ごはんの推奨

近年子ども達の生活リズムの崩れから子ども達の心身の成長に悪影響を与えていると言われています。そこで本園では「体・食」として「早寝早起朝ごはん」を園児に呼びかけています。

五月に園児の早寝早起朝ごはんの生活実態を調査し、その結果はすでに係よりお知らせしました。五月に園児の早寝早起朝ごはんの生活実態を調査し、その結果はすでに係よりお知らせしました。五月に園児の早寝早起朝ごはんの生活実態を調査し、その結果はすでに係よりお知らせしました。五月に園児の早寝早起朝ごはんの生活実態を調査し、その結果はすでに係よりお知らせしました。

ぎが十二%でしたから、遅寝遅起きの傾向になっていと言えます。小学校への接続を考慮しますと改善していかなければなりません。生活リズムの改善は急には良くならないもの。また、早寝早起き朝ごはんの生活習慣づくりは、家庭と協同行わなければ効果が薄いもの。家庭の協力が欠かせません。

③ 園内研修の推進

本園では教職員の資質の向上をねらって職員研修の推進を図っています。今年度の園内研修のテーマは「遊びが深まる、学びが生まれる環境構成について」で、実践を通して職員間で学びあうことにしています。

※1 中室牧子『学力』の経済学

※2 井深大『0歳教育の最適時期』

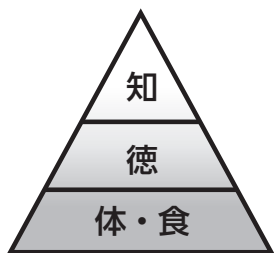


図1 乳幼児期の「知・徳・体」



みんなで遊ぶために…

Aクラス担任 瀧山 茉保

水鬼やかくれんぼ、トランプ遊びなど大人数で遊ぶことが楽しい子ども達。子どもたち同士で誘い合い、盛り上がって遊んでいます。大人数で遊ぶからその困りごともありました。水鬼など長時間楽しむ遊びでは途中で入ってくる子がいたり、違う遊びに行きたくて抜けたりする子が出てきます。四月は、途中から入ってきた子のことを全員が分らず、誰も自分の追いかけてくれなくて怒るなどのトラブルにつながり中断したり、遊び自体が消滅したりすることがありました。このことが何度かあった後、子ども達から「集合！って言ったらみんなで集まることにしよう」と提案がありました。他の子ども達も賛成して、誰かが入ったり抜けたりした時には集合して話し合うことになりました。今は、「集合！」の音が聞こえるかと遊びのルールもみんなで確認

して遊びが再開しています。遊びの中で子ども達なりに考えたことだからこそ、全員がそのルールに乗って遊びが続いたのだと感じています。今後も友達との輪がどんどん広がり、楽しく遊ぶ姿を見守りたいと思います。

やってみよう！やってみよう！

Bクラス担任 竹岡 真美

新しいお友達も加え、張り切ってスタートしたBクラス。みんな元気いっぱい、賑やかに過ごしています。子ども達は毎日好きな遊びに向



つくってあそぼ！

かっています。最近特に、制作遊びに夢中になっている子が多くいます。空き箱やトイレレットペーパーの芯、紙、テープなど様々な材料を使い、ロボットや武器、的当てゲーム、アクセサリなどオリジナルの作品が出来上がります。友達が作っているのを見て、「自分も作ってみたい！」と始める姿も多く見られます。時々、みんなの前で作品を紹介する時間を設けると、みんなに見てもらった嬉しさを感じたり、友達がしている遊びやその子の良さを知る機会にもなります。

他の遊び・生活の場面でも、周りにいる友達の存在は大きいものです。これからも、友達からたくさん良い刺激を受け、自分も「やってみよう！」「やってみよう！」といういろいろなことに挑戦したり、楽しいことを見つけたたりできるように関わっていききたいと思います。

感謝しながら…

C2クラス担任 石田 雪乃

園では毎日礼拝を守っています。四月は初めての経験だった子ども今では小さい手を上手に組み合

わせて、休んでいる子が元気になるように祈ったり、歌を歌ったりしています。ある日、ままごとをして子ども達から「おいのりをします！」と元気な声が聞こえてきました。食べ物やジュースを並べて、給食の時のように手を合わせて歌う姿がとても微笑ましかったです。周りの子どもお皿を持ってきて手を合わせ、小さなパーティーが始まりました。身近な経験から遊びが広がることを実感した瞬間でした。保護者の方から、「家でも歌って教えてくれますよ」との声があり、園で覚えたことを家庭でも披露していると知り、うれしく思います。

少しずつ園生活にも慣れ、自分



てんのおとうさま…

らしさを発揮しながら過ごして
いる子ども達。六月の参観日は短縮
開催でしたが、入園後の成長をみ
ていただけたのではないでしょう
か。今後もみんなで過ごす日々
に感謝しながら、子ども達が心も身
体も大きく成長できるように見
守っていきたいと思います。

新学期からの成長

つぼみクラス担任 村松 千尋

四月、新入園児七名が仲間入り
し、一六名でつぼみクラスがス
タートしました。新入園児の初登
園日。今年度は保護者の方も保育
参加して頂いたことで、子ども達
のリラックスした表情や普段の様
子を感じる良い時間を過ごすこと
ができました。翌日から大好きな
お父さん・お母さんと離れての園
生活で、進級児も含め不安と緊張
がいつぱいの子ども達でしたが、
それはご家庭で愛情をたくさん受
けて育っているからこそ…少しず
つ幼稚園も心地良く感じられる場
所になれば、と願って一人一人の
思いを受け止めながら関わってき
ました。

最近では、先生を真似てダンス
をしたり、友達と同じ場で遊んだ

りと、周りに目を向けて楽しんで
いる姿に確かな成長を感じ、何よ
り、大切なこの時期を保護者の方
と一緒に見守り、喜び合えること
を嬉しく思います。

これから色々なことに興味を持
ち、自分の世界を広げていく子ど
も達。その手助けをしながら、一
緒に新しい世界を覗くことができ
たら幸せです。



みんな仲良し♪

新任の先生から

○つぼみクラス担任…齋藤 純礼

まだまだ至らないことばかりで
すが、子ども達との関わり方や遊
び方を学びながら、笑顔をやさ
ずに保育を行ない、子ども達と一
緒に成長していきたいと思えます。

ふたば会会長から

毎日の送り迎えで

会長 荒谷 航平 (A業歩)

「うわ、もうこんな時間か！」
毎日の送り迎えの道中、何度も感
じています。

長女が盛岡幼稚園に通い始めて
五年目になりましたが、月日が経
つのは、本当にあつという間だな
と感じています。

入園当初、登園時に泣いていた
長女でしたが、今では、「皆さん、
さようなら！」と大きな声であ
いさつできる姿をみて、「お姉さん
になったな」と感じています。

また、先生方から聞く子供の様
子は、自宅とはまた違った一面を
知ることができ、私の送り迎え時
の楽しみになっています。

今年度は新型コロナも落ち着き、
これまでできなかったことが普通
にできる一年になればいいと思
います。そして子供たちには、友
達と毎日楽しく過ごしてもらいた
いと思います。ふたば会として
も皆様の協力をいただきながら
様々な活動ができればと思います。
一年間宜しくお願い致します。

編集後記

今年度がスタートして二カ月が
経ち子ども達は新しい生活に慣れ
てきて安心して自分を出せるよう
になってきました。コロナ禍によ
る制約がなくなり異年齢での交流
も活発になり園庭やホールはど
も賑やかになりました。

先日、「花の日礼拝」では四年
ぶりに地域の方の協力を得て感謝
の気持ちを花と一緒に届けてき
ました。又、内丸教会の牧師先生
の聖話では「いろいろなお花があ
るように皆も違っていい」とお話
してくれました。自分の世界が広
がりつつある子ども達。子ども達
の側にいる私たち大人も子どもと
共に心を動かし子どもの気持ちを
共有できる大人でありたいですね。
今年度も保護者の皆様のご協力
をよろしくお願い致します。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0001

盛岡市中央通一六―四七

TEL 六二二―二三〇一

理事長 坂本 洋